

ISPSD2012 参加報告

工学府電気電子工学専攻M2 瀬戸 康太



研究概要

私の所属する大村研究室では、パワー半導体に関する研究を行っています。パワー半導体は低炭素社会の実現に不可欠なキーデバイスであり、注目度も高まっています。パワー半導体に特化した研究室は世界でも珍しく、日本には九州工大にしかありません。多くは九州工大に入れている分野で、研究課題も多く更なる広がりが見込まれています。

私の研究テーマは「Universal Trench Edge termination Design」であり、パワー半導体の新構造の設計に取り組んでいます。本技術によりパワー半導体の小型化を実現し、量産化を可能とします。低価格のデ

バイスは、新興国など新たな市場の拡大に貢献が期待されます。

学会概要

私はベルギー（ブルージュ）で開催された国際会議 24th International Symposium on Power Semiconductor Devices and ICs (ISPSD) に参加しました。古都ブルージュは街並みが世界遺産に登録されており、水の都と呼ばれ観光地として人気の街です。

ISPSD はパワー半導体最大の学会で、加者は47名（ヨーロッパ204名、北米134名、アジア79名）でした。日本からは、東芝、日立製作所、三菱電機などパワーデバイスメーカーの方々が参加していました。学会に投稿された論文数は過去最多の182件で、採択率50%（oral 45件、poster 50件）でした。企業、大学、様々な地域のエンジニアが発表し、国別で見ると日本が27件でトップでした。九州工大から採択されたのは4件で団体別のトップ10に入っています。



遊覧ボート

研究発表

した。

今回初めて国際学会に参加し英語での研究発表を行いました。

2時間半のポスターセッションでは、間断なく聴講者が訪れ、約20人の方々に研究成果を発表することができました。各国の様々な企業のエンジニアの方々と議論ができ、今後の研究の方向性を決定する意味でも大きな収穫となりました。英語に自信が無く、初めはうまくいかないこともありましたが、徐々に自分の言いたいことを伝える事ができ、それを相手が理解してくれたという実感が得られました。

まとめ

学会発表を通じて感じたことは英語のスキルだけでなく、コミュニケーション能力が大事だということです。英語の発表と聞くと、つい英語の発音や正しい文法などを意識してしまいがちですが、実際には簡単な単語で伝わる場面が多くあります。英語に自信が無くても、話してみる事が重要なのだと思いました。

最後に、この度の国際学会参加にあたり、奨学金をいただいた明専会、また研究をご指導して下さった大村一郎教授に心より厚く御礼申し上げます。



ポスターセッションの様子